

# あすかけ



バーチャルオープンキャンパスのオープニング映像



敦賀市からの補助金でオンライン授業のために購入した学生貸出用PC



大学後援会から学生に贈られた感染症対策グッズ



Webオープンキャンパスでの学生インタビュー

海外語学研修  
希望する学生が2年生の夏休みを利用して  
カナダの協力校で約3週間の語学研修を行う  
ホームステイをしながら英会話や看護専門英語の授業を受講  
現地の医療福祉施設や文化施設などを見学し視野を広げる



中止となった大学祭の代替で開催されたスポーツ大会



卒業研究発表会

## コロナ禍における本学の取り組み

春先に新型コロナウイルス感染拡大による非常事態宣言が発令され、本学も前期授業初日から学生は自宅待機となりました。事態が読めない中で、教職員一丸となって遠隔授業の準備や学生対応に奔走しました。非常事態宣言解除を受け、6月からは感染対策を踏まえた対面の講義・演習が始まりました。臨地実習では、施設と様々な調整を図りながら、施設のご理解とご協力のもと、実習を行うことができました。敦賀市をはじめ、実習を受け入れて下さった医療施設の皆様に対して、心から感謝申し上げます。

受験生を対象とした大学紹介では、新たな試みとして大学のホームページにオープンキャンパスのページを開設して広く受験生に閲覧してもらえるようにいたしました。また、感染拡大の落ち着いた11月には、人数制限等の感染対策をとったうえでオープンキャンパスを企画実施いたしました。

今回、コロナ禍で本学がどのような取り組みを行ったか、また、現在の取り組みについても、すずかけを通して皆様にご報告いたします。

## コロナ禍での 大学の 取り組み

# 1

## 令和元年度学位記・修了証書授与式、 令和2年度入学式挙行

新型コロナウイルスが流行する兆しを見せる中、本学では感染対策を講じた上で令和2年3月22日に学位記・修了証書授与式を、令和2年4月3日に入学式を挙行いたしました。なお、出席者は、密を避けるため、卒業生・入学生、大学側から学長・学部長・事務局長のみとし、規模を縮小して行いました。



学位記・修了証書授与式での学長式辞



入学式での入学者代表宣誓

### 大学院看護学研究科 第1期修了生を輩出

令和2年3月に大学院看護学研究科で初めての修了生となる第1期生2名を送り出しました。そのうちの1名から修了後の様子についてコメントをいただいていますので、ご紹介いたします。



清水 美有さん

私は消化器・一般外科病棟で勤務しています。ここでは化学・放射線治療を受ける患者、周手術期、時にはターミナル期にある患者・家族を看護の対象としております。私はまだ目の前の事に追われながら業務にあたっています。しかし、一息付いた時に「患者は『しなくていい』と言ったが、本当にしなくてもよかったのか。看

護のニーズは別にあったのではないか」ということをよく考えます。これは、大学院で学んだ「看護とは何か」を意識的に考えることが身についたためだと思います。今後はさらに一歩進んでその場で患者のニーズを捉え、考え抜かれた看護を提供することを目標に精進していきたいと思っています。

### 緊急事態宣言発令に伴う 休校措置

4月7日に発令された緊急事態宣言を受け、本学でも1ヶ月間の休校措置を取りました。新型コロナウイルス感染下におきましても、可能な限り学生の学習環境を整えたいと、教職員は、休校期間中にリモート講義の準備や実習の調整、対面授業再開後の感染対策等、新しい試みとして様々なことについて検討し、実施いたしました。



リモート講義に関する講習会の様子

### オンラインでの授業を開始

5月からすべての授業をオンラインで行いました。

事前に自宅のネット環境の有無について調査を行い、パソコンを持っていない学生には

大学で貸出用パソコンを用意しました。また、授業で使用する教科書や授業資料は、郵送等で学生に届けたことや、オンライン授業のため、対応する職員を1名増やすなど、授業が円滑に実施できるように配慮しました。

しかし、すべてが初めてのことで、開始当初は接続トラブルなど、教員・学生とも戸惑いが見られたものの、時間が経つにつれて授業がスムーズに展開され、乗り越えることができました。

各教員が工夫した授業を考え、海外に在住する講師とのオンライン授業を行うなどメリットも見られました。



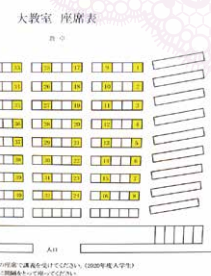


## 対面授業の再開

6月に緊急事態宣言が解除され、本学はいち早く対面授業を再開しました。対面授業再開にあたり、感染対策を以下のように徹底しました。

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のための行動指針の策定と学生への周知
- ・講義室における学生の席の指定(1m以上の間隔の確保)
- ・定期的な換気の徹底
- ・構内各所に手指消毒剤の設置
- ・毎朝の検温を義務化 など

また、対面授業再開に合わせて、学生食堂も1テーブル1席にするなどの対応を取り、営業を開始しました。



座席指定された教室での授業風景

## コロナ禍での大学の取り組み 2

## コロナ禍における本学の臨地実習への取り組み

新型コロナウイルス感染による緊急事態宣言を受け、5月初旬から開始される臨地実習は余儀なく延期となりました。緊急事態宣言が解除され、対面授業の開始に合わせて実習もスタートできると喜んでいただいていた矢先に、実習病院が新型コロナウイルス感染患者を受け入れることになり実習が困難になりました。今度は本学における実習が出来ない緊急事態の発生です。教員は、実習を受け入れて頂ける病院や医療施設探しに奔走いたしました。その結果、新たな医療施設において実習を行うことができました。こうした状況の中で、学生たちは実習を通して、改めて患者と直接関わることによって得られる学習成果や看護師としての感染予防の重要性を学ぶことができました。

実習を受け入れてくださいました施設の看護部長様をはじめ、職員の方々の教育に対するご理解とご協力によってコロナ禍での実習が実現いたしました。心から感謝申し上げます。



※新たに実習を受け入れていただいた医療機関  
(上:レイクヒルズ美方病院、下:杉田玄白記念公立小浜病院)

## 卒業研究発表会 (令和2年12月19日)

4年生の卒業研究発表会は3密を避け、3会場に分けて開催しました。大学で学んだ力を集結し、約1年間かけて取り組んできた55題の研究が発表されました。研究を行った4年生からは「多くの学びがあった」「もっと研究を深めたいと思った」など、また、発表を聞いた3年生を中心とした在学生からは「興味深かった」「今後の卒業研究の参考になった」などの感想が寄せられました。



## コロナ禍での 大学の 取り組み 3

# 地域・在宅ケア研究センターの取り組み

地域・在宅ケア研究センターでは、研究・教育と地域貢献を事業の柱にして、様々な活動を行っています。しかし、今年度の前半は新型コロナウイルスの影響でほとんどの活動を中止せざるを得ませんでした。後半になり、地域住民から感染予防やストレスとの付き合い方などのコロナ禍の現在を反映した講演依頼があり、対応させていただきました。参加者からは、大変勉強になったとの評価をいただいております。コロナの感染状況を見ながら、2月から3月にかけて実施する看護研究方法論講座や感染予防の健康講座の準備を進めておりましたが、中止せざるをえない事態になってしまいました。

また、昨年度敦賀市民を対象に行いました「生活と環境」に関する調査から、健康被害として花粉が最も多いことがわかりました。この結果を今後の市民の健康づくりの活動へ役立てていきたいと考えております。

### 【出張講座】

○あなたの手洗いは大丈夫? <伊部准教授>  
(令和2年8月23日(日)美浜町)

美浜町の住民の方(約30名)を対象に、「正しい手洗いの方法」をテーマに講座が行われました。新型コロナウイルス等の感染症を予防する対策として最も重要なのは「手洗い」です。この講座では、汚れに見立てた蛍光剤を手塗布し、普

段の手洗いした後、ブルーライトで洗い残しのチェックをしました。正しい方法で手洗いを行わないと予想以上に汚れが残っている状態を見て、参加者からは、「しっかり洗ったつもりだったが汚れが残っていてビックリした」「手洗いの重要性について再認識した」など、多くの感想をいただきました。



## 救急・災害看護研究センターの取り組み ～保健管理室との連携～



学生向けの感染対策動画の1コマ

本センターでは、インターネット上に多数掲載されている新型コロナウイルス感染症に関する情報※の中から、看護職者に役立つようなホームページを独自に選択・分類し、「新型コロナウイルス感染症に関する看護に携わる人のためのお役立ちホームページ」として、URLの一覧を作成しました。これにより、学生等が新型コロナウイルス感染症に関する正しい情報・欲しい情報が見つけやすい環境になりました。

※「新型コロナウイルス感染症&マニュアル」で検索すると6月1日の時点で、約 12,200,000 件のページが出てきます。

また、大学での新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保健管理室と合同で学生向けに感染対策動画を数種類作成しました。動画の作成には学生も積極的に参加し、生きた感染症対策を学べる機会となりました。作成された複数の教育動画は、ロビーにプロジェクターを設置して学生がいつでも閲覧できるようになっております。

URLの一覧と教育動画は本学ホームページからご覧いただけます。

## 現場の卒業生の声

現在、大学の健康相談室で働いています。大学への新型コロナウイルスの影響は色濃く、研究が進まないことに不安を感じる学生や、寂しさや閉塞感から体調不良を訴える学生が見受けられました。

私も当初は試行錯誤の連続でした。感染予防策は十分か、悩みを抱えた学生への対応ははたして適切だったのか…そんな風に考え込むことが多々ありました。しかし幸いなことに、他キャンパスの専門家の方々と連絡を密に取り合い、情報を共有することができるため、一人で問題を抱え込むことなく現在に至っています。

何より、コロナ禍でもたくましく学ぶ学生の姿は大変誇らしいです。これからも学生を支えるスタッフの一人として、精一杯励んでいきたいと思っています。

第1期卒業生 Mさん



私は現在、市立敦賀病院の産婦人科病棟で働いています。5ヶ月間の研修期間を終えて正式配属となり、それぞれ配属となった病棟で学びを深めている最中です。産婦人科病棟は、産科・婦人科の方はもちろん、他の科の患者さんもいらっしゃるため、幅広い知識が必要となり日々勉強となる事ばかりです。そのように実際に働く中で、学生時代に根柢を突き詰めて勉強するように指導を受けていたことが、生かされていると思います。教科書に書いてあったことを実際に行い、目にして、復習していくことでより理解が深まっていくと感じます。失敗をたくさんして落ち込むことが多いですが、積極的に何度も経験していくことで、身につけていきたいと思っています。新型コロナウイルスをはじめ、様々な感染症が流行し始めるので、体調に気をつけて働いていきたいと思っています。

第3期卒業生 Mさん





# オープンキャンパス

## Webオープンキャンパスサイト開設

本学では、今年度新たな試みとして、ホームページ上にバーチャルオープンキャンパス映像をはじめ、大学の特色紹介、学生インタビューなど様々なコンテンツを盛り込んだ『Webオープンキャンパス特設サイト』を8月に開設しました。パソコンやスマートフォンなど、インターネットにつながる環境であれば、いつでもどこでもご覧いただけます。ご興味のある方は、QRコードからアクセスしてみてください。



# 学事



救急・災害看護学  
救急や災害など人の生死に直結する場面での看護の知識・態度・技術を学ぶ

学生消防団  
救急・災害看護学を履修している学生15名が主となり活動している小・中学生を対象とした救命講習や市民への啓発活動、福井地域を中心としたイベントに参加している。これらの活動が認められ、2018年には総務大臣表彰を受けた。



## オンライン進学相談会を開催

8月8日(土)に実施を予定していたオープンキャンパスが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。代替として、オンラインでの進学相談会を実施し、当日は県内外から21名の高校生の参加があり、対応した教職員が様々な質問に熱心に答えていました。また、今回の相談会が好評であったことから、9月～12月の期間、週1回定期で開催いたしました。

## リアルオープンキャンパス実施 (令和2年11月3日)

国や福井県による新型コロナウイルス感染の規制が緩和されたことを受けて、11月3日にオープンキャンパスを開催いたしました。開催にあたっては、十分な感染防止対策を行い、特に密を避けるために福井県内の高校生に限定させていただきました。感染状況の違いもあり、県外の高校生にはオープンキャンパスの機会を提供できなかったことを申し訳なく思っております。

当日は、本学の特色やカリキュラム、入学試験についての説明をする「大学紹介」や実際の講義を体験する「模擬講義」、その他「看護学演習体験」、「進学相談コーナー」、「学生生活コーナー・カナダ語学研修コーナー」などのプログラムを実施しました。

参加者からは、「コロナ禍の大変な中、このような機会を作ってくれてありがたかった」などのお声をいただくことができました。





# 「F A A (ふくいアカデミックアライアンス) 学ぶなら福井！ 応援事業」 補助金を活用した、P B L (課題解決型教育) の紹介

今年度、福井県の補助金を活用したプロジェクトが3事業採択されました。それぞれの事業内容について紹介します。

## ①美浜町佐田地区住民が看護大学生と共に行う健康づくり

[申請代表教員：横山浩誉 (在宅看護学・講師)]

本活動は、美浜町佐田地区 (住民) と協力し、「美浜町佐田地区住民が看護大学生と共に行う健康づくり」を本学学生 (在宅看護学Ⅱを履修している 26 名) が主体となり、様々な取り組みを行ったものです。

2 日間 (7/14・7/28) にわたり行ったフィールドワークの内容は、①地域把握 (美浜駅周辺、佐田公民館周辺)、②サロン参加 (佐田公民館)、③講話聴講 (講師：日本地名研究所所長 金田久璋先生 [佐田地区在住])、④美浜町歴史文化館見学でした。

学生は、地域住民との関わり、地域住民の生活や地域の特徴、美浜町の歴史を理解することができ、健康づくりを考える機会となりました。



## ②幸せの県福井、人道の街敦賀における 職場での健康づくり支援事業

[申請代表教員：長井麻希江 (精神看護学・教授)]

11月6日(金)、13日(金)コミュニケーション論を学ぶ1年生53名が、働く人々の心の健康づくりを目指して企業におけるメンタルヘルスサポーター養成講座を開催しました。学生は受講された原子力安全システム研究所の管理職の方々とペアになり、約1時間半にわたって他者の相談にのるための対話技法を演習しました。講座は終始和やかに進行し、笑顔が絶えない明るい雰囲気でした。

学生らは、人生経験豊かな方々と学び合う中で社会人になることの意味や管理職者のご苦労などについて考え、コミュニケーション技法以上の収穫を得たようです。



## ③敦賀市と看護大学生が創造する 災害から要配慮者の命を守る健康づくりと防災対策

[申請代表教員：河合正成 (成人看護学・講師)]

学生は敦賀市昭和町 1～2 丁目を訪れ、水害時の避難を想定し、要配慮者の視点から危険な場所や避難場所までの歩行時間など調査しました。その結果をもとに、住民および市役所職員と意見交換を行いました (写真)。学生は、災害準備期における看護の役割について、「地域のイベント等に積極的に参加し、健康づくりを提案していくこと」ではないかと気づくことができました。こうした日々の健康づくりを支援することが学生である私たちにできることと結びついたのです。

調査に先立ち、区長様より「学生の目で地域をみてもらうことは、住民が気づかない危ない場所がわかってよい」「地域で学生を育てるこの取り組みを支援したい」と心強いお言葉をいただきました。学生は、屋外でインタビュー調査を行った際、住民の方が快く協力くださり、また学生へ「頑張ってるね」と声をかけてくださり、やりがいを感じていました。

今後も、地域とのつながりを大切にしながら活動していきたいと考えています。

## 美浜町との協働プロジェクトが表彰されました

昨年度、美浜町及び郷市区自主防災会と協力し、町民の健康づくりや災害対策を本学学生が主体となって行った取り組みが評価され、国土交通省「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づいて開催された「2020 わが町の防災コンテスト（ふくいの水防災を考える会主催）」において、福井新聞社長賞を受賞しました。

### 【学生の主な取り組み】

- ・地域の各家庭を訪問し、家族の健康状態や災害の備えについての聞き取り調査の実施
- ・地域調査を行い、危険箇所をまとめた「学生版ハザードマップ」の作成
- ・災害から命を守る健康づくり教室の開催
- ・地区の総合防災訓練に参加し、住民の救出や救助法の指導 など



## 令和2年度に着任された教員の紹介 令和2年4月から新たに5名の教員が着任されました。



教授  
吉田 三郎  
一般教養【英語】

はじめまして、今年度着任いたしました吉田三郎と申します。一般教養科目の英語と国際理解入門を担当しております。前職は高校や国立工業高専にて勤務しておりました。現在は第二言語習得の理論を取り入れた実践研究に興味があります。グローバル化の進む社会では英語での「プレゼン力」が大切なスキルと言われてます。本学においても準備と発表の過程でアウトプット技能を高め、オーディエンスとのやり取りを経験し、共に楽しみながら達成感をもって学べる学生を育てていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



教授  
徳永 日呂伸  
（専門基礎）

20年以上臨床医として仕事をしてきましたが、ご縁あって令和2年4月当学教員として着任しました。同じく臨床医を経て長年こちらにおられた前任教員から引き継いだ授業を担当するほか、学校医および施設産業医も担当しています。これまでの自分のキャリアの中で、大小様々な医療施設のほかに遠洋航路船や離島あるいは被災地において、救急医・麻酔医・整形外科医として経験してきた現場の知恵のようなものを、ひとつでも多く“看護師として巣立つ”学生の皆さんに伝えたいと思っています。



教授  
野々山 未希子  
（母性看護学）

看護学部母性看護学教授および助産学専攻科長として着任いたしました野々山未希子です。千葉大学を卒業後、助産師、HIV感染症専門の教育・相談看護師、大学の母性看護学と助産学の教員をしつつ、大学院（修士・博士）での研究、性感染症予防教育、思春期健康教育、性教育、HIV/AIDS 電話相談などをしてきました。思春期から更年期の女性と若い世代の男女のリアプロダクティブヘルスに関わる活動をライフワークとしてしていますので、関心のある学生さん、お話ししましょう。



准教授  
前川 直美  
（老年看護学）



助手  
高城 絵美  
（老年看護学）

敦賀市の  
豆知識

## 敦賀の観光地「日本海さかな街」

一般教養（経済学）  
原田 政美 教授

現代の敦賀で最も多くの観光客を呼び寄せている場所のひとつに「日本海さかな街」があります。その名前は、「日本海うお街」ではなく、なぜ「日本海さかな街」なのでしょう。

魚類を表す言葉に「うお」と「さかな」があります。「うお」は漢字では「魚」、「さかな」は「魚」とも書きますが、本来は「着」と書きます。

魚類を表す古い言葉は「うお」あるいは「いを」でした。西日本の城下町には、魚類を扱う商人が集住した「うおまち」という名称が多数存在しました。

「さかな」という言葉は、本来「酒菜」と書きます。その意味するところは、酒の肴、つまり酒のつまみ、おかずのことです。「な」という言葉は、古くは主食に副えられる食物のことであり、その「な」は菜葉のなであり、また食事に供される魚もなでありました。

日本では神道における穢れ意識に加え、仏教による殺生禁断の思想の影響により、動物たんばくの摂取について、獣肉を嫌い魚肉を優先するようになりました。その転換点は、鎌倉・室町時代であったといわれています。それまでの獣肉に代わり魚肉、つまり魚類が重視されるようになった

のです。そのため淡水魚では鯉、海魚では鯛が、最もグレードの高い魚種となりました。このような動物たんばく摂取に関する変化は、言葉にも影響しました。魚類は最も重要なおかずの素材となり、そのおかずを表す「さかな」という言葉は魚類の名称ともなったのです。

英語のミート(meat)という言葉は、本来食物全体を表す言葉でした。しかし、17世紀以降に英国社会では動物たんばくの摂取に関して、食肉を重視するようになりました。その結果、ミートは専ら食肉を意味するようになり、洋の東西を問わず、食生活の社会的変化は言葉の意味に影響したのです。

日本海さかな街は、新鮮な魚類のみならず、その加工品に加えて、海鮮丼や寿司なども提供します。したがって、「うお街」ではなく「さかな街」でなければならないのです。

みなさん、敦賀の日本海さかな街で美味しい「さかな」を探してみたいかたがたがどうか。

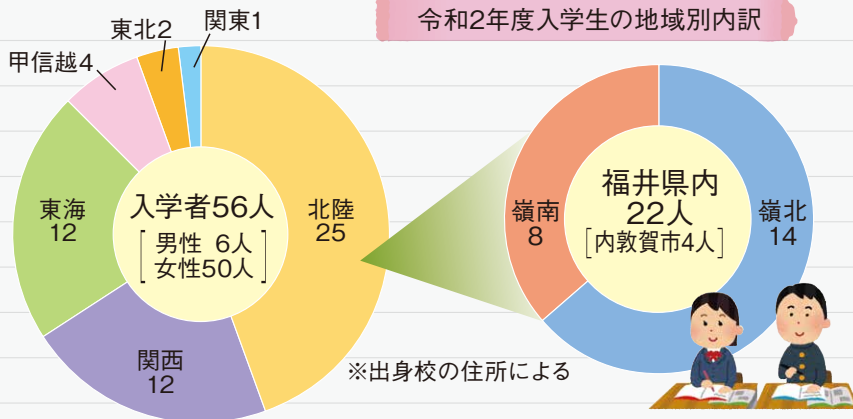




入試関連情報



令和2年度入学生の地域別内訳



敦賀市立看護大学  
ジャーナル

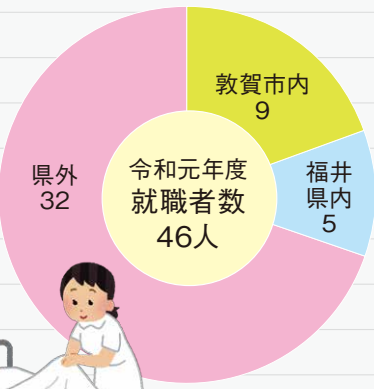
敦賀市立看護大学は敦賀市、嶺南地域における「知」の拠点としてその機能を果たすべくジャーナルをホームページで公表しています。

◎本ジャーナルが幅広く医療に関心ある方々のお役にたてればと考えています。

卒業生の進路状況

令和元年度の看護師・保健師の  
**国家試験合格率は100%**を  
達成しました。

就職勤務地内訳



看護師

- <敦賀市内>市立敦賀病院
- <福井県内>福井県立病院 / 福井県済生会病院 (医) 穂仁会 大滝病院
- <県外>金沢大学附属病院 / 高岡整志会病院 市立砺波総合病院 / 富山大学附属病院 新潟県医療生活協同組合 木戸病院 / 大津赤十字病院 長浜赤十字病院 / 岐阜県総合医療センター 岐阜県立多治見病院 / 岐阜大学医学部附属病院 福沢市民病院 / 名古屋医療センター / 名古屋市立大学附属病院 (医) 稲門会 京都いわくら病院 / 京都大学医学部附属病院 京都第二赤十字病院 / 大阪医科大学附属病院 近畿大学医学部附属病院 / (公財) 田附興風会医学研究所 北野病院 公立豊岡病院組合 豊岡病院 / 兵庫医科大学病院 虎の門病院 / 東京臨海病院 / 横浜市立大学附属市民総合医療センター 沖縄医療生活協同組合

保健師 京都府 / 福島県 / 西脇市

助産師 (専攻科)

- 宇治徳洲会病院 / 愛知医科大学病院 / 大阪母子医療センター 岐阜県総合医療センター / 一宮市立市民病院 / 長浜赤十字病院 (医) 誠光会 草津総合病院 / 神戸市民病院機構 西神戸医療センター 板橋中央総合病院

主な就職先

科目等履修生・  
聴講生の募集  
について

敦賀市立看護大学では、学生たちと一緒に学ぶことができる科目等履修生・聴講生を募集しています。詳細は本学ホームページの「地域・一般の方へ」のページをご覧ください。

図書館だより

敦賀市立看護大学附属図書館は学外の方もご利用いただけます。

利用できる方

- ◎敦賀市に在住又は勤務する18歳以上の方
- ◎その他附属図書館長が適当と認める方

開館日時

- ◎通常時 9:00 ~ 19:00
  - ◎休館日 土曜日及び日曜日 国民の祝日
- ※詳細は本学のホームページを参照してください。

貸出

- ◎図書の館外貸出が可能です。ただし、雑誌・新聞・視聴覚資料・禁帯出資料を除きます。
- ◎館外貸出には、「学外利用者証」が必要です。 ※「学外利用者証」の発行を希望される方は、現住所の分かる身分証明書(運転免許証・保険証・職員証)をご持参の上、カウンターへ申し出てください。

- ◎貸出冊数: 5冊以内 ◎貸出期限: 2週間以内

返却

- ◎図書は、必ず返却期限内にカウンターへご返却ください。
- ◎1冊でも返却期限を過ぎた図書があると、新たに図書を借りることができません。

学生食堂のご案内

敦賀市立看護大学の学生食堂は一般の方もご利用いただけます。リーズナブルなメニューが揃っていますので、近くにお立ち寄りの際は、ぜひご利用ください。

**営業時間** 平日11:30~14:00  
(13:30ラストオーダー)

※営業時間は令和2年度のもので、  
※夏季、年末、年度末は長期休業する場合があります。

編集  
後記

本来なら、4月には新入生を迎え、学生の賑やかな明るい声が学舎にこだましているはずでした。ところが、今年は世界中がコロナ禍に見舞われ、3密を避ける生きづらい日々が続いています。そんな中にもあっても、本学では、大きく社会に羽ばたいていける力を身に付けたいと願い、「できることをしよう」を合言葉に教職員と学生が一丸となって取り組んできました。地域の皆様にも支えていただきました。今回の大学ニュースすずかけ7号は、その内容をお届けできるよう構成しました。

本学がますます発展しますように、今後とも皆様のご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

(編集委員 畑野・野沢)